

サブサハラアフリカ諸国は、グロー
バリゼーションがもたらす経済的な
機会をとらえられるか：
グローバルな職業とアフリカの教育

キレミ・ムウィリア

第11回国際教育協力日本フォーラム
(東京: 2014年2月19日)

プレゼンテーションの内容

- * グローバリゼーションとアフリカの教育
- * 基盤：基礎教育と中等教育
- * 高等教育：新しい基礎教育
- * 国際社会：友人かつ競争相手
- * グローバルな競争力を持つ労働力の育成
- * 結論
- * 参考文献

グローバル化とアフリカの教育

グローバル化は、アフリカの教育とグローバル化がもたらす機会に重要な影響を及ぼす：

- * 国境を越えた研修
- * 国際的・地域的な学術交流
- * ワールドワイドウェブ(WWW)を通じた知識の獲得
- * 国際的・地域的な教育のパートナーシップ
- * グローバルな労働市場

グローバル化とアフリカの教育

アフリカは、グローバルな雇用市場をもっと活用できる：

- * 医師、看護師、観光サービス業従事者、熟練労働者、非熟練労働者、スポーツ選手、アフリカの文化・言語の教員、エンターテイナー、国際公務員などの人材を海外に輸出
- * アフリカでは人口の70%近くが30歳未満の若者。世界の若者人口の40%がアフリカに居住している。
- * 天然資源の埋蔵量が豊富
- * アフリカ市場は拡大しており、企業家精神も非常に高い。

グローバリゼーションとアフリカの教育

- * 逆頭脳流出
- * アフリカは世界で最後の未開拓のフロンティア
- * 世界で最も経済成長率が高い20カ国の中で、10カ国以上がアフリカ諸国
- * 新技術にオープン。アフリカにおける携帯電話の利用者は2005年に2500万人だったが、現在6億5000万人が利用（2000%以上の伸び率）。アフリカは米国より携帯電話の利用者が多い。

基盤：基礎教育と中等教育

教育費が公的予算に占める割合は、世界平均が16%であるのに対し、アフリカでは22%（ケニアその他数カ国では30%以上）

しかし、

2010年、アフリカでは教育制度のすべての段階で粗就学率（GER）および純就学率（NER）が世界で最も低く、中途退学者や非就学の若者や非識字者の数は最も多かった。

（UNESCO, 2012）

基礎教育と中等教育

なぜアフリカは競争力がないのか：

- * 就学前教育GER: 世界48%、北米・西欧85%、東アジア・太平洋57%、アラブ諸国22%、アフリカ17%
- * 初等教育NER: 世界91%、北米・西欧97%、東アジア・太平洋96%、アラブ諸国88%、アフリカ77%
- * 中等教育NER: 世界63%、北米・西欧91%、東アジア・太平洋73%、南西アジア51%、アフリカ29%
- * 初等教育中途退学率: 世界23%、北米・西欧0%、東アジア・太平洋9%、南西アジア33%、アフリカ42%

基礎教育と中等教育

- * 非就学児童生徒：世界18%、北米・西欧2%、東アジア・太平洋10%、南西アジア30%、アフリカ36%。世界の非就学児童生徒の半数がアフリカの子どもたち（6100万人中3100万人）
- * 成人識字率：世界84%、北米・西欧99%、東アジア・太平洋94%、南西アジア63%、アフリカ62%

理由 問題のあるガバナンス、見当違いの優先順位、不十分な資金、紛争、戦争、その他ネガティブな文化的・宗教的価値観、貧困

結果 世界の他の地域と比べて、アフリカの人材の多くは能力開発されないままで、アフリカ大陸の開発にも寄与できず、グローバルな教育や雇用の機会の恩恵を受けることができない。

基礎教育と中等教育

公正な教育の提供と達成度 就学率、修了率、成績だけでなく学習分野に関しても、社会的、宗教的、地理的に大きな格差がある。

その結果、国によっては30%以上の人々がアフリカの発展に最適な形で寄与できず、グローバルな教育の機会や雇用の恩恵も受けることができない可能性がある。先進国の欧米やアジアの新興国では、格差が事実上解消されている。

基礎教育と中等教育

質と妥当性も同じく懸念される

- * 初等教育の留年率: アフリカが最も高く35% (1140万人)、次に南西アジア (28%)、中南米カリブ海 (17%)、アラブ諸国と東アジア・太平洋 (各9%)

2007年に実施された「教育の質調査のための南東部アフリカ諸国連合」(SACMEQ)による評価、および2013年のグローバル・モニタリング・レポートの結論:

- 評価を受けた国々の3分の2以上で、児童生徒の半数近くが、最も基礎的な学力がないために学年相応の読み書きができていない。

基礎教育と中等教育

- * マラウイでは小学校2年生から4年生の96%、マリでは94%、ザンビアでは91%、ウガンダでは82%が1単語も正確に理解できていなかった！

理由

- * アフリカでは教員一人当りの児童数は平均43人（100人にのぼる場合も）。世界平均は24人。北米・西欧では14人、東アジア・太平洋では18人、南西アジアでは39人。

基礎教育と中等教育

*

- * 頻発する学校のストライキ、インフラの不整備、不適切な教材、多数の訓練を受けていない教員、不適切な管理、紛争、貧困
- * 2012年GMRによると、多くのアフリカ諸国で、児童生徒とあまり変わらない知識しかない教員が多数いる！

結果:きちんとした基礎力がないため、アフリカの子どもたちは、他の地域の子どもたちに比べて、go という単語も知らず、不利な立場にいる。このような状況で、彼らがグローバルな場で競争することを期待するのは無理がある。

高等教育

高等教育も課題がある

2003年から2008年までに、アフリカの大学進学者は2,342,358人から4,139,797人に増加（78%の増加率。世界平均は53%）。しかし大きな問題がある：

- * アフリカの高等教育のGERは世界で最低の7%。（世界平均は29%）。他の地域と比べても、非常に悪い。北米・西欧（76%）、東アジア・太平洋（29%）、南西アジア（17%）
- * モーリシャスは例外中の例外：GERがこの10年ほどの間に10%から40%に
- * その他、学生数が劇的に増加している国々：エチオピア（16万人から64万人へ）、ガーナ（23万人から85万人へ）

高等教育

- * アフリカの大学はランキングが世界的に低い。過去10年間、トップ100に入ったアフリカの大学はない。ある格付け機関のランキングによると昨年、ケープタウン大学は126位（アフリカで最高位）。
- * 同様に、グローバル競争力指数（GCI）では、アフリカの高等教育はほとんどのカテゴリーで他地域より低い順位を占めている。
- * 大学卒業生の基礎力が低いため、雇用主や大学院の教授から多くの苦情が寄せられている。

高等教育

- * 理工系を専攻する学生は、アフリカでは平均して20%に満たない。それに対して、アジアの新興経済国（中国、韓国、シンガポール、台湾）などでは50%以上。例えば、ボツワナでは12%しか理学系に進学していない。他は社会科学・教育系に進学している。
- * アフリカの大学・研究機関は世界に対してほとんど知的貢献をしていない。教員は研究をする資金も時間もほとんどない。ゆえに、
- * 一人当りの科学的論文の発表数は、先進国では85、途上国では16だが、アフリカではたった0.8しかない。

高等教育

- * 先進国の一人当り発明数は97、開発途上国では3、アフリカではほとんどゼロ
- * 2006年の時点で活動中の研究開発(R&D)センターは、アフリカ53カ国中35しかなかった(ほとんどが資金不足)。北米では861、東アジアでは655、欧州では1,576。
- * アフリカの優秀な科学者が先進国に流出していることも、状況の悪化に拍車をかけている。

しかし、1960年代には、アフリカの多くの大学が(シエラレオネのフォーラー・ベイ、ウガンダのマケレレ、ナイジェリアのイバダン、ガーナのレゴンなど)、世界の大学をリードしていた。

高等教育

なぜ危機的状況に：主に資金的な理由

- * 1990年から2004年までの間、学生一人当りの支出は世界平均で4,600ドルだったが、アフリカでは2,000ドル。しかし学生一人当りの対GDP支出は世界平均では1.24、OECD諸国は0.28に対し、アフリカでは2.93。非効率が大ききな問題
- * ルワンダの学生数は14倍になったが、高等教育予算の割合は35%から13%に減少。

結果：アフリカはグローバル市場に効果的に対応できない。また、グローバルな競争力のある人材も、アフリカのための人材も育成できない。

頭脳流出

このような状況から、今後も科学等の分野の専門家がアフリカに流入し続けるだろう。

- * アフリカには外からの駐在員が14万人以上おり、推定40億ドルの損失となっている。
- * 母国の政情不安、政府に認められていないこと、低い報酬、概して非協力的な職場環境などの理由で、推定25万人の高度な専門性を有する人材がアフリカから流出している。

頭脳流出

- * 海外留学するアフリカ人の10人に3人が戻らない。
- * ケニアでは大学生の13%（2万人以上）がOECD諸国に留学している。
- * アフリカ生まれの大卒者のうち、9人に1人がOECD諸国に移民している。
- * 1980年から1991年まで、エチオピアは熟練労働者の75%を失った。エチオピア全土よりシカゴの方が、エチオピア人の医師が多い！

頭脳流出

以上から、アフリカは専門家をグローバルな労働市場に提供してきた結果、次のようなものを得ていると考えることもできる。

- * 多額の送金（2012年のケニアへの送金額は10億ドルと推定）
- * 商業の機会
- * 海外研修の機会の拡大
- * 他のアフリカ人への新天地を開拓

しかし：これらの専門家は流出して、アフリカの開発支援や、アフリカの将来的な人材育成に貢献できていない。アフリカではほとんどの重要な開発分野で、高度な人材の不足が深刻化している。

国際社会

ドナーの資金はアフリカのものではないと多くのアフリカ人が認識しているが、以下の様な疑問が今なお出されている。

- * 基礎教育の偏重（高等教育と比較して）
- * 疎外されている人々をさらに不利にするような提言
- * アフリカ人が海外留学や海外での就職を望んでも、ビザの取得が非常に困難である。

結果： 教育のグローバル化やそれによる雇用の機会は、世界の他地域の若者と比べて、アフリカの若者にとっては現実性が少ない。

どのような改革が必要か

ガバナンス

ビジョンがあり人々の幸福のために尽くしたいと思うアフリカの指導者たちは、グローバルな競争力が持てるように、率先してアフリカの教育を改革すべきである。

- * 何をすべきかについて、国のコンセンサスを構築する。またいかなるマイナス要因も容認しない。
- * 紛争や戦争を終結させ、法による支配、平和構築の取り組み、包括性、国の資源の公正な分配を推進する。
- * 正直、勤勉、愛国心、能力主義、透明性、公正など、よい価値観を奨励する。
- * 経済や教育の地域連携を強化する。
- * IT革命に投資する。教育と共にITは平等を推進する最大の要素である。

ガバナンスの改革

- * 研究やイノベーションに少なくともGDPの1%を充てる。
- * 教育のすべてのレベルで、民間を参加させる。
- * 少ない資源を最大限に活用し、人材の研修と能力強化を図るために、中核的拠点 (centres of excellence) を国内や地域内に設立し強化する。
- * 最もニーズが高い分野の大学院教育を支援し専門性を高める。さらに、より多くを学べるであろう南アジアや東アジアの大学との連携を強化する。

ガバナンスの改革

- * 政府コンサルタント事業に国内の人材を登用する。
(必要に応じて外国の専門家と協力する)
- * 著名なアフリカ人専門家にインセンティブを提供し帰国してもらい、アフリカの若者がグローバルな機会を得て、グローバルに活躍できるように人材育成をする。韓国や台湾では、先進国から優秀な頭脳を帰国させる方略によって、奇跡的な経済発展を遂げている。
- * 先進国で若者人口が減りつつある中、職能を持つ若者や、スポーツ、演劇、美術、音楽などアフリカが比較的優位な分野の人材の輸出を促進する。

ガバナンスの改革

- * 基礎教育から高等教育まで、また職業教育や技術教育や、コア・カリキュラム以外の副教科(体育、演劇、音楽、美術など)などの質の高い教育を、多くの人々が受けられるように投資する。
- * 教員組合の行き過ぎに対応しながら、教育の費用効果を高める。
- * 初等教育から大学まで、すべての教員に説明責任を要請する。
- * 教職を非政治化する。
- * 社会的、宗教的、地域的に疎外されている人々教育を受けられるように配慮し(基礎教育の無償化・義務化)、積極的に差別是正のための介入を行う。

高等教育改革

主要な改革点:

- * 高等教育の拡大は、それを可能にする資源を確保してから実施する。
- * 教育へのアクセスと教育の提供を拡大する代替策を見出す。(昼間大学、遠隔学習)
- * 政府以外にも支援を確保する(優秀な学生、研究助成金、産業界コンサルティングやパートナーシップ、慈善)
- * 効率性。現在ある資源で、今以上のことが達成可能である。
- * 高等教育機関は、グローバルな活動をする前に、国内の視野に立って展望を持つ。

高等教育改革

- * コンテンツのデジタル化。ITを最大限に活用する。
- * 適切な質保証のメカニズム、実力主義のみによるスタッフや学生の募集及び昇格、ターゲットを絞った大学院教育によって、教育の質向上をさらに図る。
- * (従来の先進国との連携だけでなく)アジア諸国とも連携して研究や大学院教育を実施する。
- * 先進国、特にアメリカの大学で、スポーツ分野のトップ校と連携し、各大学のスポーツを強化する。

高等教育改革

- * 研究成果をもとに、グローバル市場のニーズを反映してカリキュラムを見直す。
- * グローバルな機会を捉える準備として、学生のスタートアップ企業のプログラムを設立し強化する。
- * 既存のものを模倣するのではなく、ニッチな専門分野を明らかにする。

国際社会

ドナーやその他の善意ある人々が検討する必要があること:

- * 政府や教育機関の説明責任を明確にする協力を今後提供する。
- * 科学技術教育、ITおよび高等教育により多くの資金を提供する。
- * 原子力、鉱業、太陽光・水力発電、IT、数学、科学、工学、高い質の職業・技術教育など、優先的な開発分野を対象に奨学金を提供する。

国際社会

- * 伝統的な分野以外にも多様なスポーツやエンターテインメントを支援し、機会の拡大につなげる。(水泳、体操、映画制作、野球、クリケット、アメリカン・フットボールなど)
- * アフリカの有望な学生や雇用者が資格があれば先進国で機会を得られるように、門戸拡大を働きかける。
- * アフリカ、ヨーロッパ、北米、アジアの間で、小中高の児童生徒や教員の交流を促進する。若い時からの交流は、将来的な国際協力につながるよい投資となる。
- * アフリカのためのコンサルティングやその他のドナーの仕事を、より多くのアフリカの専門家に開放する。

国際社会

- * アフリカ、ヨーロッパ、北米、アジア間の留学生、インターンシップ、雇用等の交流に投資する。
- * 児童生徒や学生（初等教育から大学まで）の学術的・非学術的な国際競技に投資し、アフリカの人材に先進国のプロのスポーツクラブを経験させる。
- * アフリカが競争力がある分野（鉱物発掘、観光、アフリカの言語・文化、スポーツ、太陽光発電等）において、アフリカの研究者の研究活動および大学院研究を支援する。

国際社会

- * 多国籍企業にアフリカ人の教育に投資することを奨励する。支援を受けた人々は企業のアフリカにおける大使になる。また、インターンシップや産学・財界の連携に投資し、科学やビジネスのイノベーションや卒業後の就職を支援することを奨励する。
- * 農産品や鉱業生産品を対象に、世界におけるビジネスの機会を広げるような付加価値をつけるプログラムを支援する。
- * アフリカの研究者や専門家とヨーロッパ、北米、アジアのカウンターパートとの共同コンサルティングや研究プロジェクトを推進する。

結論

- * ……アフリカは今や新たなフロンティアであり、経済復興の重要な成長の柱であり、ビジネスにとって魅力的な資本投資先である。認識の違いは少なくなりつつあり、アフリカへの投資を真剣に考えている投資家もいる……

(ンゴジ・オコンジョ・イウェアラ ナイジェリア財務大臣)

- * 2035年までにアフリカの労働人口は中国やインドの労働人口を上回ると予測されている。この人材はアフリカ諸国内だけでなく、アフリカ地域の市場、そしてグローバルな市場でも活用すべきである。
- * この労働力を、これらの様々な市場に対応できるよう、養成しなければならない。

結論

アフリカでは人材不足が深刻であり、世界の先進国にアフリカの人材を輸出することは正当化しにくい。

しかし、アフリカには、

- * 先進国で不足している若者の労働力に余剰がある。
- * 先進国はアフリカの可能性を活用しようとしているため、先進国で経験を積んだアフリカの人材は役に立つ。
- * アフリカに投資しようとする多国籍企業にとって、彼らの国で教育を受け、彼らの企業文化を理解するアフリカの人材は、アフリカで事業を展開する上で財産となるだろう。

参考文献

- * Africa Journal, 2013. Interview of Philip Emeagwali, an African IT Expert Based in the USA
- * African Development Bank Group, 2013. Annual Development Effectiveness Review 2013: Towards sustainable growth for Africa
- * Oxford Analytica, 2013. Africa Higher Education Growth Leaves Quality Concerns
- * SARUA, www.sarua.org; UIS,2008; The World Bank
- * The World Bank, 2011. The Africa Competitiveness Report
- * The South and Eastern Africa Consortium for Monitoring Educational Quality (SACMEQ), 2007
- * Titanji, P.K, 2001. Scientific and Technological Challenges Facing Africa in the Era of Globalization
- * UNESCO 2012. Global Monitoring Report; 2012
- * UNESCO 2012. Opportunities Lost: The impact of grade repetition and early school withdrawal

ご清聴ありがとうございました

皆様の前で話す機会を得たことを
光栄に思います。

キレミ・ムウィリア博士
kilemimwiria@gmail.com